

施策	2102 景観形成の充実							
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正		
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有		
対象	市民、事業者							
施策が目指す姿	歴史や伝統を活かした個性的な景観・街並みの形成等を図る。							
成果指標	: 修景工事を実施した建築物の総数...5年間で111戸（現状値107戸）（指標単位：戸） : 景観に関する大規模行為の年間届出件数...年間で20件（現状値32件）							
目 標 達 成 状 況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	成果指標1 []	予定	105.00	108.00	109.00	110.00	111.00	
		実績	107.00	109.00	110.00	112.00		
	成果指標2 [件]	予定	15.00	20.00	20.00	20.00	20.00	
		実績	32.00	30.00	54.00	69.00		
		単位コスト	1,601.16	1,885.03	1,021.74	802.55		
	成果指標3 []	予定						
		実績						
		単位コスト						
	成果指標4 []	予定						
実績								
	単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	51,691	58,502	65,168	60,676			
	実績	51,237	56,551	55,174	55,376			
内 部 評 価	貢献度	上位施策の目標指標である「美しい景観形成に対する市民満足度」を向上させるためには、景観形成の充実は重要であり、本単位施策の目標達成による貢献度は高い。						
	達成状況	修景総数は目標を上回る実績であり、届出件数は平成27年度から県の基準から市の景観計画に基づく基準となったため規制が厳しくなったことから大幅な増となった。						
	課題	指標の1つである修景総数について、今後は年度毎の修景件数の増に伴う助成額の増が予想されるため、国庫補助の導入など、財源確保の検討が必要である。						
	取組方針	修景に対する支援の継続や景観計画に基づく届出等の提出の徹底を図ることで、市民・事業者・行政が一体となって美しい景観形成の創出を図る。						
外 部 評 価	旧栃木市内は蔵の町並みなど景観に優れているが、市民の視点では綺麗に思われる景観であっても来訪者の視点からするともう一步という所もある。 来訪者が栃木市に何度も足を運びたくなるように、今後も歴史的な町並みや巴波川の景観の保全や修景工事に要する財源確保に努め、市民や事業者に対して景観形成の創出に必要な具体的な事例を示して、今後も積極的に地域の特性に応じた魅力ある景観づくりを推進していただきたい							
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度	
	432201	街なみ環境修景事業費				11,442	100	
	432301	都市景観形成事業費				17,260	100	
	432501	屋外広告物指導事業費				7,796	100	
	432701	伝建まちづくり事業費				5,743	100	
	434401	栃木駅周辺地区景観形成基金積立金				76	100	
	432101	まちづくり資金融資預託金				10,750	10	
	735201	蔵の街課一般経常事務費				2,309	1	

平成28年度

単位 施策評価表 補表

施策	2102 景観形成の充実		
区分	妥当性	妥当	良好な景観形成の充実を図ることは重要であり、本事業は有効である。
	コスト削減の余地	無	美しい町並みを維持・継続していくためには歴史的建造物等の修景やそれに伴う保全補助等の経費が必須であり、コスト削減は困難である。
	受益者負担	適正	修景に対する助成制度に基づき、適正な負担割合をお願いしている。
	上位貢献度	有効	修景済みの建築物の戸数や景観計画に基づく届出件数が増加することにより、市民の景観に対する意識の向上が図られ、魅力ある景観まちづくりの推進につながる。
	類似事業の有無	無	他に類似する事業はない。
	成果向上の余地	有	助成制度の周知や届出の徹底を図ることで、今後もより一層の景観の充実が図られる。
内部評価	貢献度		
	達成状況		<ul style="list-style-type: none"> ・修景総数に関しては、目標を順調に上回っている。 ・届出件数に関しては、H26年度までは県の大規模行為届出制度の基準により届出を課していたが、景観計画を策定したH27年度からは、当該計画のより厳しい基準により届出を課しているため、件数が大幅な増となった。
	課題		修景補助については、1回目の補助を受けてから15年を経過すると再申請できる制度となっており、補助した建築物等の多くが15年以上経過している。歴史的建造物等を保存し、歴史的な町並みを残していくためには、今後、再申請する物件が多くなるものと予想されるので、現在は一般財源で対応しているが、国庫補助を導入するなど財源の確保も検討しなければならない。
	取組方針		良好な景観の形成を目的に事業を実施するに当たっては、行政だけでなく、市民や事業者の理解と協力が欠かせないため、景観に関する意識向上を図るため積極的な啓発活動を行い、地域の特性に応じた魅力ある景観まちづくりを推進していく。

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 28 年度

会計	一般	款項目	080406	予算事業コード	432201	事業区分	01	投資的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策			
事業名	街なみ環境修景事業費										主	2102	暮らしやすい都市の創出		景観形成の充実		
担当部課 係・担当チーム名	都市整備部 都市計画課 景観係					担当者	田沼 篤		従								
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等	栃木市歴史的町並み景観形成要綱								事業期間	H13 ~ H33 年度		全体事業費 (人件費除)	244,175 千円	
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どういう方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 歴史と伝統を活かした魅力あるまちづくりを推進するため、大通りや巴波川周辺を歴史的町並み景観形成地区(約48ha)に指定し、地区内の歴史的建造物、非歴史的建造物、工作物等の修景保全により、歴史的な町並み景観の形成を図る。 【主要事業】										達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) 栃木市の大通りを中心に集積している「蔵」をメインとした景観形成を行うことにより、市民が誇りと愛着を有する歴史的な町並み景観の形成を図る。					
											成果目標	: 修景工事を実施した建築物の総数...5年間で111戸(現状値107戸)(指標単位:戸) : 景観に関する大規模行為の年間届出件数...年間で20件(現状値32件)					

単位: 千円、人	平成27年度決算額	平成28年度決算見込											
事業費・指標の推移	国庫支出金	0	0										
	県支出金	0	0										
	地方債	0	0										
	その他特財	1,029	1,350										
	一般財源	0	2,592										
	事業費 a	1,029	3,942										
	人件費 b	7,500	7,500										
減価償却費 c	0	0											
総事業費 a+b+c	8,529	11,442											
結果指標 1	1.00	2.00	指標名	算出方法	単位	事業の事後評価	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地	
結果指標 2	110.00	112.00	修景補助件数	修景補助をした建築物等の件数の合計 H28目標値 2件	件								
			修景補助件数(累計)	修景補助をした建築物等の累計 H28目標値 112件	件								
(改善内容とその効果を具体的に記入) ・歴史的町並み景観形成地区は、町並みの保存を目的とした嘉右衛門町伝建地区と重複しているため、現状把握を行い、保全と保存の違いを明確にし、制度に関し整合を図る。 ・歴史的町並みを形成するための基準である修景基準及び補助制度見直しのための検討を行う。													
事後評価備考													

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 28 年度

会計	一般	款項目	080406	予算事業コード	432301	事業区分	02	行政的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策		
事業名	都市景観形成事業費										主	2102	暮らしやすい都市の創出		景観形成の充実	
担当部課 係・担当チーム名	都市整備部 都市計画課 景観係					担当者	佐藤 優			従						
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等		景観法、栃木市景観条例			事業期間	H17 ~ H33 年度			全体事業費 (人件費除)	18,000 千円			

事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)までに、誰(何)を、どうの方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 良好な景観形成を図るため、平成26年10月に策定した栃木市景観計画等に基づき、各地域独自の景観行政を推進している。 【主要事業】					達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成33年度)の目標) 景観計画等の策定を行い、市民・事業者・行政が一体となって各地域の特色ある景観を保全・誘導することで良好な景観形成を図る。				
						成果目標	: 修景工事を実施した建築物の総数...5年間で111戸(現状値107戸)(指標単位:戸) : 景観に関する大規模行為の年間届出件数...年間で20件(現状値32件)				

単位:千円、人		平成27年度決算額	平成28年度決算見込	事業の内容		平成27年度		平成28年度							
事業費・指標の推移	国庫支出金		0	0	事業の内容 その成果	【事業内容】		【事業内容】							
	県支出金		0	0		<ul style="list-style-type: none"> 良好な景観形成を図るため、景観法に基づく届出等の事務を実施する。 景観計画に定められた推進方策に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> 良好な景観形成を図るため、景観法に基づく届出等の事務を実施する。 景観計画に定められた推進方策に取り組む。 							
	地方債		0	0		【成果】		【成果】							
	その他特財		541	0		<ul style="list-style-type: none"> 届出等件数 54件 色彩ガイドラインの作成 200部 景観計画の更新 本編200部・概要版2000部 		<ul style="list-style-type: none"> 景観審議会を開催する。 届出等件数 69件 景観形成計画図の作成 景観審議会の開催 1回 景観重要建造物の指定 1件 							
	一般財源		554	9,760											
	事業費 a		1,095	9,760											
	人件費 b		7,500	7,500											
減価償却費 c		0	0												
総事業費 a+b+c		8,595	17,260												
結果指標 1		1.00	1.00	指標名	算出方法	単位	事業の事後評価								
結果指標 2		54.00	69.00	景観計画に基づく関連計画の策定	景観形成計画図の作成 H28目標値 作成	計画	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地			
				景観計画に基づく行為の届出件数	年間の景観計画に基づく行為の届出件数 H28目標値 69件	件	妥当	無	適正	有効	無	有			

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入)											
	<ul style="list-style-type: none"> 本市の特色を活かした景観の保全又は形成するために策定した栃木市景観計画に定められた推進方策を順次進める。 景観形成重点地区、景観重要建造物及び景観重要樹木の指定に向けた検討を行う。 市民の景観に対する意識や理解を高めるための啓発活動に取り組む。 											

事後評価備考												
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--